しらこばと 昭和63年8月2日第3種郵便物認可 平成30年5月1日発行(毎月1回1日発行)第410号

WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2018.5

No. 410

日本野鳥の会 埼玉

SHIRAKOBATO

不遇な猛禽の汚名返上

佐野和宏（越谷市）

●トビは格好悪い？

オオタカやハヤブサにはファンが多いですね。精悍な面構えや、獲物を狙うときの勇猛果敢な姿は確かに心惹かれます。また、大型の猛禽類が初列風切りを上に反らせ、悠然と大空を舞う姿も魅力的です。

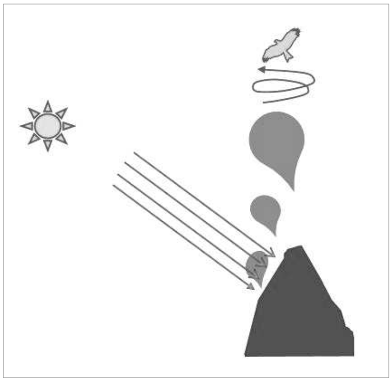
ところが猛禽好きの中でもトビが特に気に入っているという方は少ないのではないでしょうか？　それどころかクマタカなどを期待している時にトビが飛んでこようものなら、「なんだぁ、トビかぁ」となってしまいます。翼を垂らせて、風まかせに飛んでいる姿はいかにも頼りなさげです。英名は黒い凧：Black Kite ですから、まあ、実際にはこのような印象は仕方のないことかもしれません。

そんな不遇の猛禽ですが、これをグライダー（滑空機）として見るととても素晴らしい性能を持っていることに気が付きます。トビの汚名返上の為、ここではその素晴らしい「性能」を紹介します。

●グライダーとは

グライダーとは動力を持たない航空機のことで、人が乗るタイプとしては、飛行機型の「グライダー」、三角形の翼にぶら下がる「ハンググライダー」、パラシュート型の「パラグライダー」などがあります。

ただ滑空するのではなく、上昇風を使って滞空することを目的としています。その性能



を示すものとして沈下率や旋回半径、失速速度などがあります。グライダーは沈下率が良いものの旋回半径は大きく、小さな上昇風は使えません。

一方、パラグライダーは低速でも飛べるので小回りが利きますが、沈下率が大きく弱い上昇風は使えません。これらの性能は滑空してる時の鳥にあてはめることができます。

●サーマルソアリング

上昇風を利用して高度を上げていくことを、帆翔（ソアリング）といいますが、猛禽類やグライダーがよく利用しているのがサーマルと呼ばれる熱上昇風です（上の図参照）。

例えば黒っぽい地面などでは、太陽光が吸収されやすいので周囲より地表の温度が高くなります。温まった空気は膨張して軽くなり地面から離れて上昇していきますが、これをサーマルといいます。山の南向き斜面でも太陽の光がより直角に当たるので、同じような現象が起こります。このサーマルは中心部ほど上昇率が高いので猛禽類はより中心に近いところに留まるために円を描いて飛びます。これが探鳥会でよく見かける「タカが旋回している」光景です。

また、渡りの時期の白樺峠などでは、先行したサシバやハチクマが強烈なサーマルを捕まえると、遅れまいと待機していた個体が

次々に飛び出してこの下に入ります。これで鷹柱ができるというわけです。ただ、このサーマルは一旦発生すると、次に地面が温まるまでに時間が掛かります。天気はいいのに連続して飛び出してこないのはこの為です。

●トビは偉大な先生

私は若い時分にハンググライダーを楽しんでいました（前ページ左下写真の乗り手は私です)。このグライダーの沈下率は毎秒１メートル程なので､300m程の高度差から離陸したとすると着陸までは数分。この間にこの沈下率を上回るサーマルを見つけられればソアリングができますが、風は気まぐれでこれがなかなか難しいのです。サーマルの周辺は空気濃度のつじつまを合わせるため、必ず下降風帯があります。ここを突っ切れず長く捕まってしまうと、あっという間に高度を失ってしまいます。

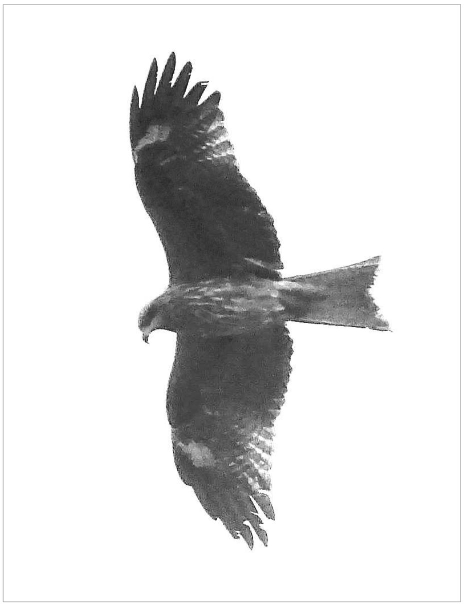
一方、トビはといえば、どんな風でも器用に乗りこなし確実に上昇していきます。この動きをよく観察していると、上昇風をうまく捉えるのはどうしたらいいかがわかってきます。トビはまさに「偉大な先生」でした。

ではなぜトビはこのような飛び方ができるのでしょうか？ グライダーとして見ると他の猛禽にはない３つの特徴が関係している様に感じます。

●垂れる翼

翼の上を向いてる角度を上反角といいますが、これが大きいと横風に対する安定性がよくなります。風の荒れる地表近くで獲物を狙うチュウヒの翼がＶ字型（下写真）となるのはこの為です。ノスリも浅いＶ字でサーマルソアリングをし、その他の猛禽の翼も下には垂れることはありません。

ではなぜトビは翼を垂らすのでしょう？ 翼が胴体の



上につく鳥は航空機として見ると「高翼機」に分類されます。このタイプは元々横風に対し安定性がよいのですが、これに上反角がつくと､さらに安定性はさらに良くなりますが、滑空比が悪くなるというデメリットが出てきます。トビは翼を垂らし、さらなる安定性より、滑空性能を優先させているのではないかと推測されます。

カモメの仲間もソアリングが得意ですが、さて彼らの翼はどんな形でしょう？ 高級スポーツカーに採用されている上に開くＭ字型のドアのことをガルウイングといいますが、これはまさに｢カモメの翼｣の形のことです。やはり下向きの翼が滑空性能に関連しているはずです。

●実は軽い

次は重さです。トビは大型猛禽に分類されますが、その大きさに対して非常に軽いとされています。その食性から、獲物を捕らえるために高速で飛ぶ必要がないので、丈夫な骨格や筋肉が不要である為と想像されます。

グライダーの性能を示すものに｢翼面荷重｣という指標もありますが、これは総重量を翼の面積で割った値となります。小さいほど性能が良いことになりますが、トビはこの値が極めて小さいものと思われます。

●バチは良く効く？

最後はバチ型の尾羽（右上写真）です。トビは他の猛禽と違い、餌を探す時間をより長く確保したい為か、僅かでも上昇風があると飛び出してきます。弱く小さな上昇風に対応するには、体勢を崩さず、そして正確に移動する必要がありますが、トビはこれを尾羽を絶妙にコントロールすることで行っています。これも想像の域を越えませんが、バチ型に角ばった尾羽は、このコントロール性能がいいものではないでしょうか。

●なんと！トビだ！

トビの印象が変わりましたでしょうか。

これからは、トビに出会ったときには「なんだぁ、トビかぁ」なんて言わずに、その飛び方からどんな風が吹いているのかを想像してみてください。弱く気まぐれな風の中を苦労しながら飛んでいる時が、最大限能力を発揮している時なのです。

●超高性能グライダー

トビにも劣らない超高性能グライダーはミズナギドリ目の鳥たちです。その性能や卓越した飛翔技術は、軽くて丈夫な無人のリモコングライダーをもってしても今だ遠く及ばないものです。また機会があれば、紹介したいと思います。

2017 年 鳥見ランキングの結果

普及部

今回は当会主催探鳥会（県内外を問わず、宿泊探鳥会を含む）での観察鳥種数を競うものでした。

結果は、浅見徹さんが 151 種でチャンピオンに輝きました。おめでとうございます。三宅島や戸隠探鳥会など遠隔地の予約探鳥会で観察種数を稼ぎました。第２位の市原あゆみ・知明さん親子は 2014 年の第１回「会員を増やすための探鳥会」に家族で参加、その場で当会に入会されました。その後、一家で精力的に探鳥会に参加されています。第３位の関口勇三郎さんは 2016 年「会員を増やすための探鳥会」に参加されて入会、第４位の村越百合子さんは昨年秋に入会されたニューフェイスです。

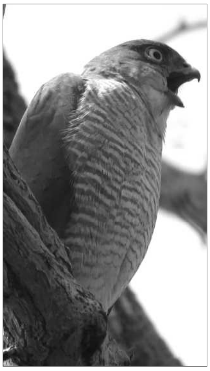
なお鳥見ランキングは、今回をもっていったん休止とし、今後実施方法などについて検討したいと思います。再開の場合は、『しらこばと』でお知らせいたします。

2017 観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏 名	住所
1	151	浅見　徹	さいたま市
2	122	市原あゆみ・知明	川口市
3	108	関口勇三郎	深谷市
4	62	村越百合子	上尾市

ツミ♀の下面の斑はこんなにも違う

鷹乃文月（三郷市）



2018,04,01 Ａ公園

2018,03,31 Ｂ公園

Ａ公園とＢ公園では、1.5 kmも離れていません。それゆえ、同一個体が行き来しているかもしれないという人もいました。しかし、それをあえて否定する自信はありませんでした。

そこで、今年は苦手な写真撮影に挑戦してみました。写真を撮ってみると明らかに違いが分かりました。「同一個体ではない、Ａ公園は成鳥、Ｂ公園は若い個体だ」。

『しらこばと』2017 年２月号の特集『カメラで広がる野鳥との世界』の「●その時は気づかなかった事がわかる」とはこのことか、と思った次第です。

自分にとっては、新しい楽しみを見つけた思いです。

野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園　◇１月14日、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、カイツブリ、アオサギ、オオバン、カワセミ♂１羽、コゲラ、アオゲラ♂１羽、モズ、カケス、ウグイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ♂１羽、ジョウビタキ、アオジ、シメ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど。２月12日、カワセミ♂１羽♀１羽が釣堀の杭で仲良く休息。アオゲラ♂１羽が木をつつく。アカハラ♂は顔がずいぶんと黒い。ベニマシコ♀１羽がひっそり採餌。ハヤブサが上空旋回して元荒川下流へ(鈴木紀雄)。

熊谷市(旧大里町)津田新田　◇１月15日午後12時10分頃、カラムクドリ。通勤途中の車内より観察。ムクドリの小群にカラムクドリ２羽が混ざっているのを確認。翼の白色と黒色のコントラストが綺麗でした。以前、谷津干潟にまで見に行ったのに熊谷にもいた‼（大畑祐二)。

吉見町松崎　◇1月17日午後12時30分頃、道路わきの電線にコチョウゲンボウがとまっていた（大畑祐二)。

さいたま市浦和区木崎３丁目　◇1月18日、オナガ５羽が「ゲーイゲーイ」と大騒ぎしているので、上空を見るとオオタカ若鳥が舞っていた。斜面林でシジュウカラ、メジロの混群。コゲラ♂♀？ カワラヒワ、ツグミ。空から「ツィーリーリーリー」という声が降ってくるので確認するとヒメアマツバメ約15羽の群れが飛び交っていた（鈴木紀雄)。

秩父市荒川贄川　◇１月21日午前11時45分～午後１時、 猪狩山の頂上付近の葉を落とした木の枝にクマタカがとまっていた（山本惠美子)。

川越市菅間　◇１月24日午後12時50分頃、今冬もコミミズクを確認した。通勤中の車内からの観察。雪景色の畑にうずくまるコミミズク。背景が白いので保護色の影響が少なく見やすかった。昨冬より少し東の畑だった（大畑祐二)。

さいたま市見沼区東門前（53397513）　◇１月27日、タゲリ２羽。県道２号線の上空を強い風に難渋しながら北に向けて飛んで行った。先日の大雪で餌場に困り、見沼田んぼへ偵察に来ていたのだろうか(森本國夫)。

幸手市中川河川敷（5439-0691、5439-0690）　◇１月27日、カルガモ５羽、コガモ♂10羽♀８羽、ダイサギ１羽、イカルチドリ４羽、タシギ７羽、イソシギ２羽、キジバト２羽、チョウゲンボウ１羽、シジュウカラ１羽、ヒヨドリ３羽、ツグミ１羽、スズメ16羽、ハクセキレイ９羽、セグロセキレイ４羽、カワラヒワ32羽、シメ２羽、アオジ１羽。２月６日、 コガモ♂19羽♀12羽、キジバト３羽、アオサギ１羽、ダイサギ１羽、イカルチドリ１羽、タシギ１羽、イソシギ１羽、ミサゴ１羽、ノスリ１羽、カワセミ２羽 、チョウゲンボウ２羽、モズ１羽、シジュウカラ14羽、ツグミ３羽、ジョウビタキ♂２羽、ハクセキレイ６羽、セグロセキレイ８羽、タヒバリ１羽、カワラヒワ16羽、ホオジロ３羽、カシラダカ１羽など（荒川貴之)。

吉見町吉見総合運動公園　◇２月１日、タゲリ12羽、ツグミ多数。２月27日、ウグイスが竹藪で囀り、ヒバリが空高く舞い上がって囀っていた。タゲリ16羽、ツグミ多数、カワラヒワ50羽±が芝生で採餌。カシラダカが赤味をまして、綺麗になってきた。他にモズ、アトリ、ノスリ、トビ、チュウヒ、タヒバリなど（長嶋宏之)。

加須市加須はなさき公園　◇２月１日、ヒドリガモ56羽、カルガモ２羽、コガモ12羽、アメリカヒドリ交雑個体１羽、他にオオバン、バン、カワウ、アオサギ、ダイサギ、モズ、シメ、ツグミ、アオジ、ハクセキレイ、ホオジロ、ムクドリなど。２月６日、ヒドリガモ60羽、アメリカヒドリ交雑個体１羽、ダイサギ２羽、オオバン、バン、シメ、アオジ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、ウグイス、カワラヒワなど(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園周辺　◇２月３日、シロハラが雪のない木の下で、落ち葉を掻き分けて採餌。屋敷林からツミの声が響いた。東

沼の縁でクイナらしい鳥が歩いていた。２月14日、人気がなくなった西沼で20羽のカルガモがのんびり泳いでいた。カワセミが杭の上から飛び込んで小魚を捕まえた。２月25日、ツミが枯れ木の天辺に30分以上とまっていた。２羽のハシボソガラスが大声で猫を威嚇し、逃げた猫を執拗に追いかけた。屋敷林でカケスが騒いだあと、オオタカが上空を南に流れた（長嶋宏之）。

東松山市早俣　◇２月５日、早俣橋付近の田んぼでミヤマガラス約200羽（嶋田富夫）。

坂戸市鶴舞樹林　◇２月６日午前８時30分頃、高麗川若宮橋から浅羽ビオトープに行く途中の通りがかった樹林でイカル約150羽の群れ。木々の枝から樹林脇の堤防斜面地に、上がり下りして採餌しているようでした。近年観察個体は増えてきているが、これほどの群れを見るのは初めてだ（増尾隆）。

川越市～ふじみ野市　◇２月７日朝、新河岸川で初めてタシギを見る。久しぶりのアカハラとシロハラ。合計31種（プリングマン・ウィリアム）

蓮田市貝塚　◇２月16日午後、山ノ神沼周辺の田んぼ中にマガン１羽（下写真）を見つける。カラス３羽が近づいてきたが、追い払っていた。２月17日もいたとのこと（篠葉利夫）。

坂戸市浅羽ビオトープ　◇２月24日午前11時過ぎ、レンジャク撮影のカメラマンでにぎわうビオトープ内の水路で、亜種ハチジョウツグミと思われる１羽。胸から腹への縦斑に黒い斑は全くなく、俗に言うレンガ色の斑。ツグミ様の眉斑が有るが、ツグミ同様ハチジョウツグミも個体差の多い鳥で、赤褐色味の程度で、ハチジョウ（八畳）、ロクジョウ（六畳）、ヨジョウハン（四畳半）などと冗談で言うそうだ。デジカメで動画撮影した（増尾　隆）。

白岡市白岡総合運動公園　◇２月25日、換羽が進んだハシビロガモの♂と♀の２羽が一緒に円を描きながら採餌していた。ヒドリガモとオナガガモが陸に上がって日向ぼっこ。他にオオバン、アオサギ（長嶋宏之）。

蓮田市西新宿４丁目　N36.0064 E139.6500
◇２月25日、タシギ５羽、イカルチドリ１羽、ハクセキレイ１羽が中洲で採餌。セグロカモメ２羽が上空通過。カワセミ１羽が急に飛び出した。他にコガモ、シジュウカラ、キジバトなど（長嶋宏之）。

白岡市西２丁目　N36.0135 E139.6496　◇２月25日、タシギ８羽、イカルチドリ１羽、ハクセキレイ１羽が中洲で採餌。カワウ１羽が上空通過。他にコガモ、カルガモ、シジュウカラ（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区深作遊水地　◇２月27日昼前、２月初旬から確認されていたコハクチョウが１羽増えて、今日は３羽（下写真）になっていた（嶋田富夫）。

比企郡川島町柴竹　N35.9776 E139.4828
◇２月27日、田圃の上空をコミミズク２羽が飛んだ。他にハヤブサ、ツグミ、ダイサギなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区川通公園(53397548)　◇３月５日、カワラヒワ、ツグミ、ハクセキレイ、ムクドリ、スズメ（野口保男）。

表紙の写真

チドリ目カモメ科アジサシ属コアジサシ
昨年５月、市内運動公園の臨時駐車場で求愛給餌に成功したオスは、ドヤ顔かな。

榮　武男(春日部市)

行事案内

ウズラシギ（編集部）

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費:中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物:筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻:特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：**５月３日（木・祝）**

集合：午前９時15分、宇和田公園駐車場。

交通:東武伊勢崎線 東武動物公園駅東口から境車庫行きバス8:45発で「上宇和田」下車。北方向に徒歩５分。

担当：佐野、佐藤、竹山、田邉、村上

見どころ：東行きのコースで田んぼのムナグロやコチドリを探します。もちろんシラコバトにも期待です。もしかして、山へ向かう途中の夏鳥も。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：**５月５日（土・祝）**

集合：午後１時、JR京葉線 南船橋駅前。

交通：JR 武蔵野線 武蔵浦和 12:01→南浦和12:04→京葉線直通 南船橋12:54着。

解散：谷津干潟現地で、午後４時ころ。

担当：杉本、伊藤、手塚、長谷部、菱沼(一)、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：午後の開催です。これから繁殖地に向かうシギ・チドリ類が主役です。見分けの練習になります。

長野県・中軽井沢レディース探鳥会

期日：**５月12日(土)**

集合:午前８時、しなの鉄道中軽井沢駅北口。

交通：北陸新幹線大宮発6:54(はくたか551号金沢行)→高崎7:19→軽井沢着7:34しなの鉄道に乗り換え7:41発→中軽井沢着7:45

解散：午後１時30分ころ、ピッキオビジターセンター（ハルニレテラス→軽井沢駅の無料バスがあります)。

担当：吉原(早)、相原(友)、中川、菱沼(洋)、藤澤、藤田

見どころ：キビタキ、オオルリ、コルリ、クロツグミなど夏鳥を探して約５km を歩きます。

ご注意：探鳥会終了後、軽井沢野鳥の森に行かれる方は、足元が滑り易いのでハイカットの登山靴をお薦めします。昼食持参。小雨決行、嵐・大雨中止。**女性限定です。**

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：**５月12日（土）**

集合：午前８時45分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前９時、加須はなさき公園管理事務所前。

交通：東武伊勢崎線 春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34。JR宇都宮線 大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原(修)、石川、植平、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ：公園内の身近な野鳥を探します。昨年、見られた夏鳥や巣材をくわえていたあの鳥達は今年も姿を見せてくれるでしょうか？

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：**５月13日（日）**

集合:午前９時 30 分､秩父鉄道 大麻生駅前。
交通:秩父鉄道 熊谷 9:09 発､または寄居 8:50 発に乗車。
担当：千島、新井、鵜飼、倉﨑、田島、飛田、中川、村上、茂木
見どころ：河原でコチドリ、オオヨシキリ、野鳥の森では移動中のセンダイムシクイ、キビタキに会えると良いのですが。

栃木県･奥日光（戦場ヶ原）探鳥会

期日：**５月 13 日（日）**
集合：午前 10 時、日光赤沼バス停前。
交通:東武日光線　春日部 7:02 発特急リバティけごん１号東武日光・会津田島行きに乗車、終点東武日光 8：22 着。東武バス 光徳･湯元行 東武日光駅 8:40 発に乗車し｢赤沼｣（9:44 ころ着)で下車。
解散:15 時 30 分ころ､湯滝レストハウス横。
担当：入山、浅見(徹)、近藤、佐野
見どころ：奥日光の赤沼から湯滝まで夏鳥達を探しながら歩きます。夏鳥の美しいコーラスを存分に楽しみましょう。
その他：①昼食と雨具を必ず持参してください。②探鳥コースは、殆ど平坦で約 5 ㎞位歩きます。③東武鉄道「まるごと日光東武フリーパス」がお得で便利です。④前日(5/12)17 時発表の、宇都宮地方気象台気象情報 0288-177 で、栃木県北部 5/13 午前中の降水確率が 60％以上の場合は中止です。その場合は、担当者も現地に行きません。

『しらこばと』袋づめの会

とき：**５月 19 日（土）**午後３時～４時ころ
会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：**５月 20 日（日）**
集合:午前９時､さいたま市立浦和博物館前。
交通：JR 北浦和東口に 8:15 までに下車し、正面信号を左側から渡り、50ｍ先左手バスターミナルから 8:23 発東武バス｢さいたま市立病院行」で、終点下車。駅に案内人の出迎えはありません。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、新部、畠山、増田
見どころ：夏鳥を中心に探します。芝川沿いでオオヨシキリやコチドリの姿を観察できるでしょうか？　もちろん、キジやオオタカにも期待。陽射しがあると暑くなりますので､温度調節できる服でご参加ください。

埼玉 Young 探鳥会
群馬県板倉町・渡良瀬遊水地

期日：**５月 26 日（土）**
集合：【電車の方】午前９時 15 分、東武日光線 板倉東洋大前駅 東口。【車の方】午前９時 30 分、想い出橋駐車場。
共催：日本野鳥の会東京
担当：廣田､石塚(敬)､石塚(真)､石塚(奏)､河邉、髙﨑
見どころ：国内でも生息地が限られるオオセッカをはじめ､オオヨシキリ､コヨシキリ､セッカが見どころです。また、ヨシゴイ、サンカノゴイが見られることも！　ヤングな皆様、初心者、ご家族連れ大歓迎です。
ご注意:昼食をはさんで午後１時 30 分ころ解散の予定です。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：**５月 26 日(土)～27 日(日)**
詳細は、４月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：**５月 27 日（日）**
集合：午前９時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。
解散：正午ころ、稲荷山公園。
担当:長谷部､石光､島﨑､鈴木(秀)､高草木､中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：新緑の入間川河原をのんびり、ゆっくり歩きながら夏鳥たちを探します。繁殖期の彼らはとてもデリケート、遠くからそっと観察しましょう。

行事報告

11月５日（日）　春日部市　内牧公園
参加：57名　　天気：晴

キジ　カルガモ　キジバト　アオサギ　オオタカ　コゲラ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　ジョウビタキ　スズメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　カワラヒワ　ウソ　アオジ（25種）（番外：ドバト）　風吹くも暖か。ツグミ他の冬鳥が来ていないようだ。何とかタヒバリ、ジョウビタキ、アオジがいた。しかし、終りの方で予想だにしなかったウソ１羽が出現！ 至近距離で全員見ることができた。冬鳥への期待には応えられなかったが、ウソ１羽に救われた。　**（石川敏男）**

11月９日（木）　羽生市　羽生水郷公園
参加：42名　　天気：晴

キジ　ヨシガモ　ヒドリガモ　マガモ　カルガモ　オナガガモ　コガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　バン　オオバン　ツツドリ　ミサゴ　トビ　ハイタカ　カワセミ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　ホオジロ（32種）（番外：ドバト）　名物のヨシガモは50羽位、ヒドリガモ、オナガガモも見られた。池の奥に潜むカワセミに歓声が上がり、ヒバリの囀りが聞こえる。芝刈機の後を数十羽のハクセキレイが追い、滑り台にはジョウビタキ、上空をミサゴが飛ぶ。鳥合せ時にはツツドリが来たが、今季初認のツグミが出たのは残念ながら終了後。　**（相原修一）**

11月12日（日）　熊谷市　大麻生
参加：38名　　天気：快晴

カルガモ　キジバト　ダイサギ　ハイタカ　オオタカ　カワセミ　コゲラ　アカゲラ　チョウゲンボウ　ハヤブサ　モズ　ハシブトガラス　ヤマガラ　ヒガラ　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　トラツグミ　シロハラ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　シメ　ホオジロ　アオジ（31種）（番外：ドバト、ガビチョウ）　10月下旬の二度の台風で探鳥路が荒れ、急きょ、野鳥の森へ向かうコースを選択した。今シーズン初見のツグミを始め、そこそこの数の野鳥が出たが、鳥影がいちばん濃かったのは、鳥合せをした「池」のところだった？　**（榎本秀和）**

11月18日（土）　さいたま市　見沼自然公園
参加：19名　　天気：曇

オカヨシガモ　ヒドリガモ　マガモ　カルガモ　オナガガモ　コガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　コサギ　バン　オオバン　カワセミ　コゲラ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　シロハラ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　カワラヒワ　シメ　ホオジロ　アオジ（37種）　冬鳥を求めて歩く。加田屋川ではお目当てのタヒバリが出てくれて、ホッ。大宮聖苑の横ではチョウゲンボウが飛来し近くに止まった。可愛い顔の♀。その後も、我々の行く手に飛来し何度も止まり、本日のヒロイン。　**（浅見　徹）**

11月18日（土）　『しらこばと』袋づめの会
ボランティア：９名

相原修一、伊藤芳晴、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、小林みどり、志村佐治、藤掛保司

11月19日（日）　嵐山町　菅谷館都幾川
参加：45名　　天気：晴

コジュケイ　キジ　コガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　ダイサギ　イカルチドリ　トビ　ノスリ　カワセミ　コゲラ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　ヤマガラ　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ（33種）（番外：ガビチョウ）　雑木林の中は風が強いせいか鳥はいない。開けたところに出ると高い木の梢付近でツ

グミ１羽がじっとしていたので良く見られた。メジロ、ヤマガラがいて、シメが飛んできて梢にとまった。エナガの群とコゲラが現れ、アオジが藪の中で鳴いていた。都幾川に出ると、ハクセキレイ、キセキレイがいて、イカルチドリ４羽が飛んだ。対岸の水際にカワセミ２羽がとまり、桜並木の上空でノスリが帆翔していた。対岸に渡り、土手を歩くと、カシラダカ１羽が木にとまり、コジュケイの声が聞こえてきた。直ぐ近くの草にベニマシコ♀が止まった。夢中で実を食べていたので全員でじっくり見ることができた。 **（千島康幸）**

11月19日（日） さいたま市 三室地区
参加：53名 天気：晴

オカヨシガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカルチドリ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ（26種＋ハイタカ属不明種１）（番外：ドバト） 寒くはないが、強風。小鳥達は隠れてしまって出てこない。個体数が少なく若干不満気味であった。また猛禽も出現したが、オオタカとハイタカに意見も別れ、観察種には入れなかった。次月以降に期待したい。 **（青木正俊）**

11月19日（日） さいたま市 三室地区 Beginner
参加：15名 天気：晴

キジバト カワウ アオサギ オオバン モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒヨドリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ ホオジロ（12種）（番外：ドバト） 絶好の鳥見日和と言いたいところだが、あいにくの強い風。鳥達の出方も遠慮がち。そんな中でも皆様の新鮮な反応に担当者一同助けられた。 **（石塚敬二郎）**

11月23日（木、祝） 本庄市 坂東大橋

雨のため中止。 **（新井 巖）**

11月23日（木、祝） 志木市 柳瀬川

雨のため中止。 **（鈴木秀治）**

11月24日（木） 戸田市 彩湖
参加：48名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン ユリカモメ トビ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ（42種）（番外：ドバト、ガビチョウ） シーズン初の彩湖探鳥会。風がなくてありがたい。冬鳥の種類は揃っているが、個体数が少ない。ベニマシコ、声はすれども姿をなかなか見せてくれないが、シーズンは始まったばかり。お楽しみはこれからである。渡りの途中と思われるビンズイが現れた。こういう出会いがあるのがこの季節の彩湖の魅力。 **（小林みどり）**

11月25～26日（土～日） 宮城県 蒲生干潟-蕪栗沼

最少催行人員に達せず中止。 **（長野誠治）**

11月26日（日） 蓮田市 黒浜沼
参加：59名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ コサギ クイナ オオバン アマツバメ ハイタカ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン（39種）（番外：ドバト） 冬鳥が次々に到着する一方、旅を続ける鳥もいる。頭上を飛んだアマツバメは、どこまで南下するのだろう。ハイタカも旅の途中と思われる。今回は、長年メインリーダーを務めた玉井リーダーの退任後、初めての会。先頭を玉井さんに歩いていただいた。列が長くなった時も、長身の玉井さんの姿が遠くに見えていると安心だった。このお姿が最後となった。玉井さんのご冥福を祈ります。 **（小林みどり）**

11月26日（日） 狭山市 入間川
参加：28名 天気：快晴

マガモ　カルガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　ダイサギ　コサギ　バン　オオバン　イカルチドリ　イソシギ　ユリカモメ　カワセミ　コゲラ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　ヤマガラ　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ツグミ　ジョウビタキ　イソヒヨドリ　スズメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　イカル　ホオジロ　アオジ　オオジュリン（35種）（番外：ドバト）　良く晴れた初冬の朝、雪を被った富士山が良く見え、川ではダイサギが出迎えている。マガモ、イカルチドリ、チョウゲンボウ等が次々と現れ、樹上のジョウビタキのオスが日差しに映える。堰のブロックでイソシギがダンス。目を移すと高層建物の妻付近にイソヒヨドリが止まっている。林にはイカルが群れで飛来していた。**（鈴木秀治）**

12月２日（土）　加須市　渡良瀬遊水地

参加：36名　　天気：晴

キジ　ヒドリガモ　マガモ　カルガモ　オナガガモ　コガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　ミコアイサ　カイツブリ　カンムリカイツブリ　ハジロカイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　オオバン　セグロカモメ　ミサゴ　トビ　ノスリ　コゲラ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　アカハラ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ　オオジュリン（41種）　まずはミサゴが飛んできた。谷中湖ではハジロカイツブリとカンムリカイツブリが間近に浮かんでいる。中の島から先ではベニマシコの声が良く聞こえるようになったが、湖上のカモは寂しい限り。それでも何とかミコアイサの♂♀をスコープに入れることができた。　**（佐野和宏）**

12月２日（土）　所沢市　狭山湖

参加：27名　　天気：晴

オシドリ　マガモ　カルガモ　オナガガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　カイツブリ　カンムリカイツブリ　ハジロカイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　トビ　ノスリ　コゲラ　ハシブトガラス　ヤマガラ　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　ツグミ　ルリビタキ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　カワラヒワ　アオジ（32種）（番外：ドバト、ガビチョウ）　カモ類の少ないのが気になるなか、沖合に見慣れぬ鳥影を発見。オシドリ♂のエクリプスと判った。当探鳥会では嬉しい初記録。その他、ツグミ類、ヒタキ類等の冬鳥も少なかった。この時季だけの現象と思いたいが‥‥。「**この冬は カモの姿の少なくて 寂しさつのる水辺の景色**」　　**（石光　章）**

12月３日（日）　北本市　石戸宿

参加：51名　　天気：快晴

キジ　マガモ　カルガモ　オナガガモ　コガモ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　バン　ヒメアマツバメ　トビ　オオタカ　ノスリ　カワセミ　コゲラ　アカゲラ　モズ　カケス　ハシブトガラス　ヤマガラ　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　シロハラ　ツグミ　ルリビタキ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ（38種）（番外：ガビチョウ）　日向は暖かかったが日陰は寒い。鳥の出が芳しくない。シジュウカラ等の混群にも会えず、ガビチョウの声も無く静かであった。それでも、ノスリやオオタカが青空を飛翔し、東屋近くの柳の木にカシラダカが沢山（10羽±）入っているのを全員が見られた。　**（吉原俊雄）**

12月３日（日）　さいたま市　民家園周辺

参加：64名　　天気：晴

オカヨシガモ　マガモ　カルガモ　ハシビロガモ　コガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　ミコアイサ　カイツブリ　カンムリカイツブリ　ハジロカイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　コサギ　オオバン　ユリカモメ　ミサゴ　ハイタカ　オオタカ　カワセミ　コゲラ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　セッカ　ムクドリ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ（44種）（番外：ドバト）　例年ならばチュウヒが主役なのだが、今年は水量が多いためかヨシ原が狭く、残念ながら観察できなかった。代わって主役を務めたのがミサゴ。調節池の上空を悠然と旋回する姿（２羽！）は迫力満点だった。　**（須崎　聡）**

連絡帳

●全国への会報送付をメール送信に

従来全国支部等には印刷した会報そのものを送っていましたが、PDF 化したデータを本部から一括してメール発送する支部が増え、当会もその方法を採用することになりました。

●埼玉県カワウ対策協議会に出席

３月 23 日(金)埼玉県教育会館(さいたま市)で開催され、当会から小荷田行男が出席しました。報告事項：県内で個体数の減少傾向継続。関東では２万羽程度の個体数を維持。県内営巣(2018/03/19)芝川第一調整池 14 巣、彩の森カントリークラブ 41 巣。山田大沼 2018/1〜3 月営巣なし。アライグマ親子による卵ヒナの捕食。森林公園内でアライグマ駆除実施計画中。など。

●会員の普及活動

新ハイキング主催「野鳥を観る・知る」第 25 回が２月 24 日(土)、渡良瀬遊水地で開催され、浅見徹、工藤洋三、藤田敏恵、星進、小林みどりが指導。参加者 15 名。

日本セカンドライフ協会主催「かわいい鳥をもっと知ろう」勉強会が２月 28 日(水)、都内池袋で開催され、身近な鳥とこれから見られる夏鳥について、小林みどりが講演。

埼玉県立小川げんきプラザ主催「ジャム作りとバードウォッチング」が３月 11 日(日)小川町金勝山登山道で開催され、千島康幸松下光、青山紘一が指導。参加者 65 名。

●ごめんなさいコーナー

前月号９ページ「5 月〜8 月あの鳥はどこで予報」で、「チュウサギ、コチドリ、カワセミが５月の黒浜沼で･･･」とありますが、5 月の黒浜沼は現在開催していません。「5 月〜8 月たくさん見える！予報」の表で、5 月黒浜沼と 6 月高麗川・群馬渡良瀬の括弧表記がもれていました。

●会員数は

３月１日現在 1,632 人です。

活動と予定

● ３月の活動

３月 10 日(土)　４月号校正（海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

３月 18 日（日）　役員会（司会：山部直喜、各部の報告・行事予定一部変更・その他）

３月 19 日(月)　『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこばと』４月号を郵便局から発送（海老原美夫)。

● ５月の予定

５月５日(土)　編集部会。普及部会。

５月 12 日(土)　６月号校正(午後４時から)。

５月 19 日(土)　袋づめの会(午後３時から)。

５月 20 日(日)　役員会(午後４時から)。

編 集 後 記

どうせ１年間くらいだろうと思って気軽に引き受けた他３団体と交代執筆の読売新聞埼玉県版「動物日記」が、３月 17 日で 15 年目、当会の執筆 150 回目を迎えた。始まったのは平成 16 年(2004 年) ２月８日。さぎ山記念公園周辺探鳥会 30 年も長いけど、これもさすがに少し長すぎるかな。(海)

しらこばと　2018 年5月号(第 410 号)　　定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人　海老原美夫　　編集発行　日本野鳥の会埼玉　(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号)　TEL 048-832-4062　FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130　http://www.wbsj-saitama.org　事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com　　編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は　〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室　TEL03-5436-2630　FAX03-5436-2635　gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。
印刷 関東図書株式会社